

## 文化教育 ～旅行編～

進藤真衣

モンテッソーリの5分野の中に文化教育があります。4歳～5歳ごろからニュースで聞く国がどこにあるのか知りたくなったり、外国にはどんな人が住んでいるのか興味を持ってきます。世界と聞くと大きすぎてイメージしにくいですが地理、歴史、宗教、伝統、音楽、美術を含む要素は全て文化教育に分類されます。伝統や音楽、美術などは乳児期からも触れることもできます。

海外や国内旅行、日帰り旅行などは文化教育がわかりやすく伝えられる機会のひとつです。先日韓国に旅行に行ってきました。韓国人の友達に会ったり、買い物や、観光など盛沢山の充実した旅でした。普段と違う環境は、感覚もいつも以上に研ぎ澄まされます。さて、どのような場面が文化教育に繋がるのか！？

例えば、地元の食べ物、看板や標識、言葉、歴史的建造物、街の雰囲気、空気感など普段の生活から離れ、5感を使って感じる事が出来る機会は子どもだけでなく大人も刺激を受け印象に残ります。また、トラブルやアクシデント、感動や発見など実際に本物に触れて感じる体験も良いです。

文化教育に限ることではありませんが、子ども達には、経験、体験、失敗、感動、を通して達成感や、満足感、好奇心など、自信をつけていくプロセスを大切にしたいと思っています。



海外旅行をした際に必ず持ち帰るものの中に現地通貨があります。

先日、年長さんに現地通貨を紹介しました。

日本円と、韓国ウォンの何が違うのか、大きさ、形、色、描かれている人物や建物にも気づき、言葉はどのようなものなのかなど興味は広がっていきました。

こうして子ども達の声や興味に耳をかたむけ探求する気持ちを育てていく機会を増やしていくことが新たな探求心や知識、考える力へと繋がっていきます。



園の中にも文化教育に触れられるコーナーや教具をたくさん用意しています。

幼児期の様々な学びが網の目のように広がっていると、成長したときに「あ、これ知っている」「こんな時はこれを活かせばいいのではないか」といろいろなことに応用できるようになるのではないかなと思っています。そしてきっとより自信にも繋がっていきます。

